

1. はじめに

21世紀になり世界は経済・金融・情報のグローバル化、国際的競争が進む一方で文化的摩擦、環境問題などの課題解決に向け、国境を越えた国際的な連携・協力体制ができつつあります。国内では円安や株価の上昇など景気回復の兆しが見え始めたものの、依然として少子高齢化と過疎化、格差の拡大、財政悪化、年金問題、子どもの学力の低下などの諸課題は解決できずにいます。私たち教職員全員は、これらの社会的諸問題を踏まえ、教育問題に正面から立ち向かい、取り組み、改革・解決しなければならない責任があると考えます。

学校教育においては、「少子化の進行」「地域や家庭の教育力低下」「児童虐待」「不登校」「引きこもり」「学級崩壊」「いじめ」「基礎学力の低下」等、多くの教育課題があります。教育課題である「基礎学力の低下」や「学ぶ意欲を失った子どもたち」や「ニート」「フリーター」といわれる社会との関係を持ってない青少年が増加していること等、特に重要な課題です。このような中で、学校教育は様々な教育課題克服と共に、子どもたちに「楽しく学ばせ」、「基礎・基本の学力」と、これからの社会を「生き抜く力」を獲得させ、「自己実現」をめざすための積極的支援教育に挑戦しなければならないと考えます。

学校教育は、国際化を視野に入れると共に、中・長期的なグランドデザインを描き、保護者・地域の願いに応え様々な教育機関が協力・補完し合いながら実践することが大切だと考えます。

安岐小学校は、港学校に始まり塩屋学校を経て、まもなく創立140周年を迎えます。このすばらしい伝統を受け継ぎ、保護者・地域の子どもへの教育への期待、学校を愛する気持ちが人一倍大きい小学校です。この願いを受け、安岐小学校では、教育目標『**元気！発見！挑戦！**』を掲げ、保護者・地域との連携を強化した信頼される学校づくりを進めます。

私たち教職員は熱意・謙虚・誠実な気持ちで個々の子どもの姿をみつめ、子どもの心情を正しくうけ、子どもたちの可能性を信じ、情熱を注ぎ、授業を中核とする全ての教育活動の中で、子どもたちの能力を引き出し豊かに伸ばすことに全力を傾けます。

2. 教育課程編成の原則

教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分考慮し、適切な教育課程を編成し、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行う。

学校の教育活動を進めるに当たっては、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努める。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮する。

校区の概要

国東市安岐町は面積 90.75 k m²、人口は 9,279 人の町である。

(2013 年 3 月現在)

1954 年の五町村合併によって新町制による安岐町として発足し、2006 年 3 月 31 日に国見町・国東町・武蔵町と合併して国東市安岐町となった。本校は、この国東市の統合により、2006 年(平成 18 年)「国東市立安岐小学校」となった。

校区は、国東市の南部に位置し、両子山から伊予灘に注ぐ安岐川沿岸に広がる田園地帯で、河口付近には、かつて多くの楓が咲き乱れ、現在も「楓江の郷」と呼ばれて親しまれている。

安岐町は、仏教文化の華をさかせた歴史ある国東半島に位置し、江戸時代に活躍した思想家、自然哲学者三浦梅園や元外務大臣重光葵等の偉人を輩出した地である。現在でも梅園祭や紅陽祭が開催され、子どもたちは先輩の偉業を学んでいる。

また、安岐小学校区には、田原氏ゆかりの安岐城跡がある。この安岐城は、安岐漁港を見下ろす台地の上に応永年間に築かれた城で、東は海、南に安岐川の河口、そして西と北には堀を設け、台地先端に本丸を置いていた。築城主である田原氏は、大友氏の一族で、安岐城は飯塚城の別城として築かれたものである。

現在、安岐城址には、天満社の小さな社が建てられていて外周には幅約 5 m の堀が残っている。

安岐城址に代表される歴史ある安岐町には、江戸時代中期に始まったとされる伝統的で勇壮な川舟神幸がある。毎年 7 月下旬に行われるこの祭は、住古社の祭典で、船上の炎が漆黒の夜空を焦がし、人々の安息安寧や海上安全を祈って男衆が次々に川に飛び込む様子は、ダイナミックかつ幻想的で、当日は大勢の町民で賑わう。

校区の保護者は、古くから安岐に住む人々と、進出企業に勤務する転入者等が混在しているため、価値観の多様化が見られる。そのため、保護者の中に互いの思いに対して戸惑いの見られる時期もあった。しかし、現在では価値観の違いを交流することによって新しい活力を生み出し、積極的に教育を応援しようという熱い思いで学校を支えてくれる保護者が多数存在し、地域興しグループ「あ組」によるボランティア活動や読み聞かせボランティア「お話広場」、さらに学習活動に対する数多くのサポートなど、多岐にわたる支援を展開している。

また、学校併設の幼稚園と、道路を挟んだ位置に保育所があり、特に幼稚園とは幼小連携の取り組みが盛んである。さらに、近年の共働き家庭の増加に伴って、放課後児童クラブが公民館に開設されていたが、保護者の強い要望により、現在は学校内に「かえでクラブ」として設置されている。



